まちなか誘客
子育て支援・健康増進
エコ環境

平成21年度は次のようなことに取り組みます

まちなか誘客元年 歴史と品格が漂う美しいまちづくり

●「はたや記念館ゆめおーれ勝山」オープン

●まちづくり交付金事業を継続

●景観法に基づく景観計画を策定

「はたや記念館ゆめおーれ勝山」が7月18日（予定）にオープンします。このオープンを機に「まちなか誘客元年」と位置づけ、恐竜博物館やスキージャムと連携し、中心市街地への観光客の呼び込みを図ります。市内38の地元商店などで構成する「まちの駅ネットワーク勝山」がスタートし、市民参加の四季折々の花いっぱい事業とともに「もてなし」を演出します。まちなか観光情報の発信、観光マップも充実させ、電動自転車による観光「バイクナビ」を新たに始めます。

まちづくり交付金事業（5か年事業・8億円）を継続し、勝山駅周辺、本町周辺の歴史と品格のあるまちなみ整備を継続します。市単独の景観補助制度を継続し、新たに景観法に基づく景観計画の策定を目指します。

まちの駅ネットワーク勝山設立総会の様子

子育て・教育・福祉の充実

●保育料軽減県下トップなど子育て支援日本一を目指す

●北、西児童センターの学校併設化を促進

●県下初、全年齢対象のがん検診無料化と公衆浴場利用助成

保育園保育料は、国の保育料徴収基準と比較して年間総額で約1億152５万円を軽減し、県下トップクラスを維持します。

児童センター、児童教室の学校併設化を図るため、成器西小学校、村岡小学校を改修します。

障がい者の福祉タクシー利用助成拡大と精神障がい者の社会復帰のための助成を新たに実施します。

県下初となる全年齢対象のがん検診無料化を実施します。さらに高齢者などの公衆浴場利用助成を県内で初めて実施します。（10ページ参照）

また、福井社会保険病院の機能存続に向け、地元医師会などと協力し地域医療ビジョンの策定を行います。

（仮称）勝山市総合体育館など市内体育施設のあり方について、総合的に検討するための委員会を立ち上げます。

快適な生活環境・エコ環境都市の実現

●道整備交付金事業などによる道路拡幅

●公共下水道、農業集落排水事業の促進

●住宅用太陽光発電設備促進

●環境自治体会議誘致、バイクナビの導入

道整備交付金事業では、6・64号線（芳野町1丁目）の道路拡幅を完了させます。また、元町2丁目の松文第3工場跡地の道路拡幅などについて計画に着手するほか、狭い道路の融雪対策も計画的に実施していきます。公共下水道は、鹿谷、遅羽、荒土、平泉寺地区などでの面的整備を進めます。

環境対策では、一般住宅の太陽光発電整備促進を図ります。

また平成24年度に誘致する全国環境自治体会議に向け、市民団体とともに視察、実践、研究を行います。その他、自転車による市内観光「バイクナビ」の促進や、電車など公共交通機関の利用促進、公用車の低排出ガス車へのシフト、公共施設のISO遵守を推進し「低炭素型社会」の一翼が担えるように努めます。

産業と観光の振興、史跡整備

●緊急雇用創出・ふるさと雇用再生

●地質遺産「ジオパーク」の登録申請

●史跡白山平泉寺旧境内総合整備事業の推進

緊急雇用ふるさと雇用対策として3か年で8400万円の予算計上を行い、延べ8000日の雇用創出に努めます。

地質遺産の保全・活用を図るため、「日本ジオパーク」の登録を行い、地域活性化に向けジオツーリズムを推進します。（8ページ参照）

観光産業活性化の検討協議会を立ち上げ、観光振興ビジョンを策定します。平泉寺などの総合観光ガイドブックを作成するほか、着地型観光商品、観光ルートの開発にも3か年計画で取り組みます。

史跡白山平泉寺旧境内の総合整備事業は、ガイダンス施設や遺跡の築地塀・門の復元のための実施設計などに約7500万円を予算計上しました。

整備が進む平泉寺旧境内の石畳道

安全・安心な人に優しいまちづくり

●小・中学校、市営体育館で新たに耐震化整備に着手

●音声などによる防災無線放送と緊急メールの配信をスタート

●自主防災組織の活動助成を新設

市庁舎（継続事業2年目）、鹿谷小学校体育館、市民会館玄関部、成器西小学校管理棟および渡り廊下の耐震補強工事を実施します。その他、勝山中部中学校第1体育館、勝山南部中学校北校舎、市営体育館の耐震補強計画を策定、平成22年度以降の耐震補強に向けた取り組みを行います。

地震、水害、大規模テロなどの緊急情報を音声などで即座に伝達する防災行政無線（同報系）整備は、この秋に供用開始を目指し、市内25か所に子局を設置します。

携帯電話などを利用し、緊急情報などを登録者に一斉配信するシステムも整え、5月1日にスタートさせます。

「地域防災力」の向上を図るため、新たに自主防災組織の助成制度を設けます。

20年度に行われた勝山中部中の耐震工事

定住化・市民参画・行財政改革など

●第5次総合計画基本構想策定に着手

●市営住宅新築、雇用促進住宅取得

●上下水道料金制度協議会立ち上げ、簡易水道統合本格化

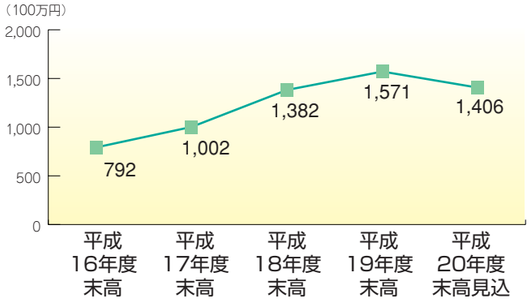
勝山ゆかりの団塊世代をはじめとする移住検討者の定住促進・短期滞在を促進するため、「あなたを活かす」第2ステージの支援や空き家・空き地情報の発信を継続します。

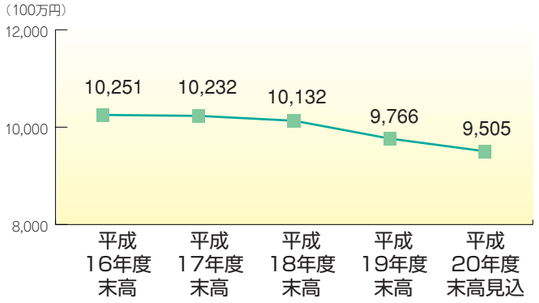
（仮称）栄町住宅（12戸）の新設に向けた実施設計に着手し、また雇用促進住宅下毛屋宿舎（80戸）を2875万円で取得し、定住化を促進します。

平成23年度から第5次総合計画がスタートすることから、2か年をかけ、その基本構想、基本計画の策定に当たります。（9ページ参照）

また、公営企業会計の健全化を図るため、上下水道料金制度協議会を設置し、料金適正化について検討を始めます。平成28年度までの簡易水道統合に向け計画的な事業着手などを行います。

定住化促進のため取得する下毛屋宿舎





※勝山市では借金となる市債を減らす一方で、預貯金にあたる財政調整基金を維持し、健全な財政運営に努めています。